

すべてのものが生きる病院環境を目指して。医療の質の向上を実現。

医療法人 明仁会 かないわ病院



岡田 淳夫 氏

医療法人 明仁会 かないわ病院 病院長

かないわ病院は1956年、石川県金沢市北西部地域の医療の必要性から、医師会及び財界有志により設立された精神科病院です。

21世紀はこころの時代と言われ、地域社会とのつながりと透明性、更に安心して相談できるセキュリティレベルなどが不可欠となってきています。また、加えて精神科病院では医師・看護師だけでなく、多職種の専門集団が一人の患者さんに初診から入退院、職場復帰、家族支援など幅広く関わっています。

当然ながら1人の患者さんに10人が関ればその数に応じた見立て・考え方があり、関わるスタッフが綿密に情報交換・共有をしなければ患者さんの状況を正確に把握出来なくなります。

多職種の認識を共有し情報の集約や速やかな伝達、方向性の設定を可能とするには電子カルテは必須のシステムです。

チーム医療にはすべてのスタッフがその能力を最大限に発揮して連携することが重要で、最大の目的とするのは患者さんの利益であるべきです。

患者さんとスタッフの信頼関係が作られていること、スタッフ間の信頼関係が出来ていること、かないわ病院はすべてのものが生きる環境を目指してIT技術を活用しています。

■IT導入の背景と目的

昨今、精神科病院では、国の医療費削減の取り組みとして、慢性疾患を取り扱う療養病床の削減すなわち「社会的入院」を削減し、地域社会に復帰させようとする背景があります。

このことにより、これまで療養病床を取り扱う精神科病院としては大幅な収入減は避けられず、早急な方針転換を求められることとなり、国の施策に従い効率的な医療費の削減を実行すべく、患者様の早期復帰をめざして病院の「急性期化」に舵をきることとなった。

病院の急性期化に向かうにあたり、取り扱う情報の高速化や関連施設部署等への共有を実現するため、院内情報システム基盤を根本から整備することが必要となり、また携わる職員においてもこれまでよりも質の高い医療サービスを提供しながら急性期化に向かっていくため、それぞれの意識を変革し、電子カルテを「活きたマニュアル」として「業務標準化」を目指すという目的を掲げながら、病院情報システム全体の刷新を行った。

■IT化の概要

● 病院情報システムを支える「止まらない」IT基盤の構築

24時間365日連続稼働が求められる病院情報システムのIT基盤として、ネットワーク、サーバー、ストレージを完全冗長化により、病院情報システムを無停止かつ安定運用させる為の仮想化システム基盤に更新した。

● 「業務変革/経営革新」を目指して院内情報システムを刷新

患者サービスおよび医療の質の向上を目指し、電子カルテシステムを新規導入。また部門システムである医事会計システム、医療用画像配信システム(PACS)、生理検査システム、調剤支援システム、給食・栄養管理システム等も並行して刷新し、電子カルテシステムと連携させた。

さらには、過去の紙カルテや日々院内で発生する紙帳票はスキャンニングにより電子化し、文書管理システムにて一元管理を実現。

職員の新しい働き方を実現し、急性期化に対応するチーム医療促進とスピード経営に寄与する院内情報システムを導入した。

● 経営革新

- 医療の質の向上
 - 患者サービス向上
 - 医師・看護師の確保
 - 地域医療連携
 - 業界影響力、国への意見具申
- 地域中核病院へ

● 病院情報システム刷新

- 部門システムの刷新
- 新モダリティ機器導入
- 電子カルテ導入
- 過去カルテの電子化

● 医療安全維持

- 情報セキュリティ
- 医療過誤防止
- チーム医療

→ 情報管理共有

→ 新しい働き方の実現

→ 業務変革

